

# 環境と保育

私たちは、毎日の保育に園の環境をいかすために、どんな配慮をしているでしょうか。長所を長所としていかすだけでなく、短所をも短所にしていくことができると思います。もちろん、そこには、おのずから限界もあります。今は、「環境と保育」ということで、三人の方にかいていただきました。

## 保育日誌から

川崎 千束

子どもの園の環境を、正面きって書きあらわすよりも、ここに保育日誌の一部を抜き書きして、わが園のプロフィールを見ていただくことと思いました。

K君に妹ができたのは、入園の年の六月頃だったから、それまで彼は独りっ子でいたわけで、例外なく独りっ子の特質を多分に持っていた。母親がこの大学の卒業生で非常に教育熱心であり、他区からの遠路を、自から自転車にのせて、ほとんど休まず通園された。しばしば観察室にはいっては集団の中のわが子を観察され、彼の融合性のないことを嘆かれたが、私はまず彼を正確にとらえようと考えた。

子どもたちが出揃って活躍の盛んになる九時四十五分から十時までの十五分間、保育の場における彼を観察したものを、保育日誌に書き留めておいた。今その数日を抜き書きしてみるが、彼に孤立の日が続いている。日附が九月であればなおさら、この子の孤独は私の保育の怠慢と思われるであろうか。彼のIQは120である。

— × × —

九月九日(木)晴

幼稚園の前庭で、数人の子が桐の実を拾っている。K君もその仲間にはいつているかに見えるけれど、桐の実を拾ってはいない。独りであちへ行ったり、こちへかけ出したりしている。——下園の時、迎えに来られたお母様が「K君が桐の実が欲しいといっていますので」と申し出られたので、他の子の拾ったのをわけてもらって袋に入れてあげる。——

九月十日(金) 晴

やはり独りで上靴入れのところではんやり立っている。

「蜂がいるよっ！」と四、五人の子が叫ぶと、そちらの方に走りよって、無言で窓の上の蜂を見上げてゐる。すぐそばで汽車ごっこをしてゐる一群がいるけれど仲間にはいろうとしない。

「先生輪ごむが落ちてたよ。」と私のそばに來たのをとらえて、汽車ごっこの切符と切符切りばさみを手渡して切らせてみせる。始め切れなかつたのが三度目にボツと穴があいた。ニッコリ笑顔になつたので、その切符をもらつて私が汽車ごっこのお客さまになつてみせる。しかし、K君は汽車ごっことは無関連で切符を切つてゐる。M君が横合いから飛出して切符切りはさみを奪つてしまふ。それでも一言も発しない。

九月十一日(土) 晴

ひぐらし蟬の鳴声を上手にまねて私にきかせてくれる。昨日の切符切りに興味を持つたのか「切符切り貸して」と申出る。青組のはさみを借りて渡すと熱心に切つてゐる。十分後にはそのはさみを持つたまま、水槽の亀の泳ぎを見てゐる。さらに三分後には、切符だけを持って近くの整地のブルトーザーの動きをじつとみてゐる。

「切符切りのはさみはどうしたの？」

「青組さんに貸しちゃつた」との返事。

正午近くお月見のすすきを採りに愛世病院裏の小丘に行った時には、皆よりずつとおくれて、赤とんぼを追いまわしてゐた。

九月十三日(月) 曇時々雨

台風、九州上陸の警報あり。

子どもたちが毎日呑む牛乳が、きょうは配たつがおそい。催促の電話をかけて帰つてみたら玄関で珍しく、K君がH君と話し合つてゐる。

手に水すましのような虫を持っていて、私をみつけると、

「先生、これ、水の中でも泳ぐよ。」という。

「じゃ、水の中に入れてやりましょう。」

「ただの水じゃ駄目。水溜りでなくちゃ。」

註——ぶらんこの下の水溜りで捕えて來たので。——

「水盤も水溜りも同じよ。ためしに水盤の中に入れてみましょう。」納得させて、水盤中に放たせただけれど、掌の中で固く握られていたので急には泳がない。

「やっぱり駄目。水溜りがいいんだ。」

「もう少し見てみましょう。」

暫く見ているうちに泳ぎ出した。

「なあに。なあに。」と近寄ってくる他の子どもたちを大声で、「見せてやらないぞ!!」とどなつてゐる。

この組の二年の保育が終りに近づいた二月上旬、「学芸大の付属小学校の考査に合格できました。」と來園された時の、この母親の緊張した面もちと、すこし、はにかんだK君の笑顔とのコントラストが忘れられない。

詩心

參觀に來られた保育の学生に、忌憚ない批判を求めたら、

「案内、何にもないんですね。」と。まさにしかり。

型のごとく、ピアノ、オルガン、大型中型の積木、ままごと道具、お人形、縫いぐるみの動物数匹、画架、粘土入れ、それらが九十坪の建物の中に散在しているだけで、園内はひっそりとしている。創立後歳浅く、備品の多くは望まれないし、伝統がかもし出す魅力あるふん囲気をつくるにも至っていない。その参観時が子どもたちの下園後であればなおさら、貧弱感を持たれるのは当然であろう。

しかし、園舎をめぐる数多い檜の立木に目をとめられたであろうか。一気に芽吹く頃の胸にせまるあの香を何と表現しよう。新葉の緑がしずくとなっていたり落ちるようで、葉の重なり合った梢を、ふっと仰ぐと深い緑に吸いこまれそうになる。檜の生命の強さが、私たち子どもたちの胸をゆさぶり、生活への活素を与えてくれる。園庭で最高潮に遊ぶのもこの時である。遊び疲れて、樹かげで憩っている時M子が、

「先生、もう、夜よ。夜になって羽が露にぬれてとべなくなつたの。」といい出す。子守唄のメロディを口ずさんでやると、檜の木にびったり頬をくっつけて眠るポーズを皆がとる。不思議なことに、自分まで遊び疲れた蝶のような幻想にとらわれて、いつしか子どもたちに身を寄せているのだった。芽吹きは魔性である。

付属高校から運動会の練習のマーチが流れてくる頃は、一陣の秋風にも、どんぐりが、ポタリ、ポタリ落ちる。子どもたちの心の中にも、ポタリ、ポタリどんぐりがおちていく。そして、いろいろなイメージが湧き出て詩が生れる。劇ができる。

あおい あおい そら

風が ふいてるよ。

ぼろり どんぐりがおちた。

こおろぎが ころころ にげてった。

あおい あおい そら

風が ふいてるよ。

(家政大学付属幼稚園)

## 狭い園の保育

秋田好枝

「環境をいかに生かして保育するか」という課題について、本園の環境と、保育の実際について、述べて見ましよう。

一、幼児の家庭の環境について

岡山市の北西部にあり、田、畑、山ありの静かな住宅地である。岡山大学、清心女子大学などの学校施設や、池田産業動物園、国立病院、旧練兵場などがあり、幼児の家庭環境としては、自然に恵まれ、理想的です。

近時、旧練兵場の一部が、公務員住宅になったり、田畑が一般住宅にかわり、人口が増加してきています。

二、本園における幼児の環境について